



Vol.5

綾ユネスコエコパークまちづくりネットワーク協議会紹介

綾町農家民泊コンソーシアム

(有木重昭代表 8人)

綾町では、自然と人が寄り添う里山の暮らしが営まれています。そうした暮らしを体験するのが農家民泊の魅力です。

私たちは農家民泊を通して、綾町の魅力や自然と共生する暮らしを多くの皆さんに伝えたいと活動しています。高千穂町などの先進地を視察した経験も生かしながら、農業体験をはじめとする自然に触れる機会や地元の皆さんとの交流の場を提供しています。

宿泊するのは町外・県外の方がほとんどです。最近は海外からのお客様も増えつつあります。農泊をきっかけに綾町を深く知ってもらうことで、関係人口の増加や移住促進に繋がれるのではないかと思います。

過去には綾町にふるさと納税をしてくださった北海道の方が、返礼品として受け取った野菜のおいしさに感動し、ぜひとも栽培の様子を見たり生産者に会ったりしたいと、農泊を利用されました。まちを挙げて取り組む自然生態系農業や環境保全に共感して下さったり、野菜や果物の味に感動して下さったりするお客様との一期一会の出会いを楽し



北海道から来られたお客様



日向夏の収穫体験などの農業体験を提供

みながら活動できることが大きなやりがいになっています。

今年は移住相談を受けることも多く、農泊を通じて、綾町に移住した方もいます。当団体メンバーも移住者が多いので、最近では役場と連携し、移住を検討している人に町内の案内や暮らしの相談対応なども行うようになりました。

そのほか、農泊の実施に関する相談もお受けできますので、農泊に興味がある、将来やってみたいという町内の方がいらっしゃればぜひご連絡ください(☎090-145881-2989)。

綾ユネスコエコパーク推進室・綾ユネスコエコパークセンター

☎77-3482 URL <https://ayabrcenter.jp> ※エコパークセンターは毎週日・月曜日および祝日休館
休館などの情報はホームページで随時更新します



Column

ニホンジネズミ

ネズミと名前がついていますが、実はモグラの仲間です。ネズミに似て鼻がとがっているのですが、この仲間にはトガリネズミと呼ばれています。は虫類からほ乳類に進化していく途中にあたる、原始的な痕跡を残すほ乳類といわれています。

人里の近くから森の中まで広範囲に生息していますが、地下にいたことが多く普段はあまり目にすることはありません。オスはわき腹から独特の匂いを出すため、ネコに捕まっても食べられずに遊ばれることがあります。暗い場所での生活に適応しているため、目が小さく視力はよくありません。代わりに長いヒゲで獲物を感知して捕まえます。

定期報告の審査が1年延期に

ユネスコエコパーク(BR)の登録から10年が経った綾町は、10年間の変化や取り組み内容などをまとめた定期報告書を令和4年9月、日本ユネスコ国内委員会(事務局文部科学省国際統括官付)を通じて、ユネスコ本部へ提出しました。日本国内のBRでは初の定期報告となります。

予定では、令和5年3月ごろに開催される生物圏保存地域国際諮問委員会定期報告書の審査が行われ、その結果を受けて同年6月にユネスコ本部で開かれる人間と生物圏(MAB)計画国際調整理事会で審議されることになっていました。

しかしながら、綾町が提出した定期報告書は、文部科学省を経由してユネスコ本部へ提出する際に郵送のトラブルが生じたことや、ユネスコ本部内の受理後の情報共有に不備があったことなどから、今年の国際諮問委員会の審査にかか

ていないことが判明しました。

そのため、1年遅れて令和6年3月ごろに審査、同年6月に審議が行われることとなりました。ちなみに、審議までの間、綾町のユネスコエコパーク登録が外れるなどの影響は何もありません。

綾町としては、今後、日本国内の他のBR登録地域が定期報告書を提出することが増えるため、今回のような遅れが二度と起きないように、ユネスコ本部との密な調整や審査までの確実なスケジュール管理を文部科学省へお願いしたところです。

綾BRの10年間の取り組みの評価を得るのは少し先になってしまいましたが、新たな10年はすでに始まっていますので、引き続きユネスコエコパークとしての地域づくりに取り組んでいきます。



綾BR専門委員会で経緯を報告